

ドイツと日本の高校生の環境意識の違いについて 自由の森学園 塩瀬 治

1 概要

なぜドイツと日本では環境に対して社会の意識や政策に違いがあるのか。これは両国での環境教育の違いや家庭教育、若者の生育歴の違いなど様々な原因が考えられる。

本テーマはいくつかの日本の高校と大学、ドイツの高校でアンケート調査や合同討論をすることで環境問題に関心のある人の割合や、なぜ環境問題に対して、意識や行動に差があるのかを調査した。

2 実践内容

今まで、ドイツの学校や環境教育施設を視察したり、大学生達と環境への意識をどう持つか、具体的な行動をどう起こしていくのかについて話し合う機会を持った。今年度は再び生徒達とドイツを訪問し、環境問題の意識調査を高校でした。

特に、環境問題への関心や具体的活動の有無についてのアンケート調査を本校及び、ドイツの高校と比較検討した（ドイツ回答者数96名、日本回答者数119名）。具体的には9項目の質問事項を設け、「あなたは環境問題に対してどのようなことを実行、考えていますか？」という質問には下記の図1のような差がでた。

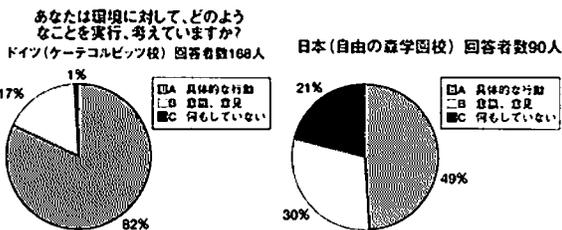


図1ではドイツ側高校生が環境問題に対して具体的に行動するという回答が83%で、日本側高校生の49%と大きく差がでた。この内容はドイツではゴミの分別、エネルギーの節約、ゴミをゴミ箱へ捨てる、リサイクル活動をする、公共交通機関の利用、自転車を利用、環境団体、NGOへの参加と多岐にわたっていたのに対して、日本ではゴミの減量、ゴミの分別と具体的に行動する手段の少ない回答だった。また、環境問題に対して何もしていないと答えた人は、ドイツ側が1%だったのに対して日本側は21%と大きな差があった。

3 結果と主な考察

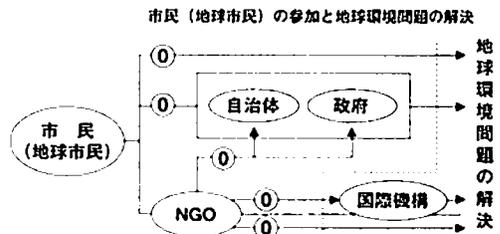
ドイツのニーダーザクセン州にあるケータコルピッツという中学高校とほぼ同規模の埼玉県にある私立自由の森学園の生徒間の合同環境意識調査をした結果、以下の違いがあきらかになった。

- 1) 「買い物に行く際、自分のショッピングバッグをもっていきますか？」という質問項目に対して、持っていくと答えたのは、ドイツ85%に対して、日本23%だった。このような環境に対しての具体的な行動が日本の高校と比較して顕著だった。
- 2) 「リサイクル商品を買う事がありますか？」や「車を買う時にあなたならどちらを選びますか？ a) 自然に優しく高価格 b) 一般的なもので低価格」という質問項目にはドイツ側、日本側に顕著な差は認められなかった。
- 3) 「どの発電方法がもっともよいと思われますか？ a) 水力 b) 火力 c) 原子力 d) 風力 e) 地熱 f) 太陽光」という質問に対してはドイツ側が多い順に太陽光39%、水力21%、地熱15%なのに対して、日本側、太陽光30%、同じく風力30%、原子力24%だった。

下の図2は市民の参加と地球環境問題の解決の働きかけの方法を示したものである。

①は直接的な行動、②は選挙などによる方法、③はNGOを通して政府・自治体に働きかける方法、④、⑤はNGOに参加して国際機関や政府に直接働きかける方法である。

考察としてあげられるのは、ドイツでは環境問題を学校の授業やNGOの活動などで知見したり体験したりする機会があり、ドイツ全土にある600箇所の環境教育施設の働きも大きく、その事が、環境への意識や具体的な活動の方法(図2)で日本との差を生み出していると思われる。日本の高校生は環境問題の事柄や知識についてはドイツの高校生より高い部分もあったが、その問題意識が社会参加の方法が機会がないため、行動に結びつかないという現状があるようだ。



引用文献
上村 昌也(1999) 環境問題を学ぶ人のために 和洋 武蔵
東京大学環境市民国際政府 2000.12